わが家のデザート

高橋保子　主婦会宮浦支部

いつの頃からかわが家にも、デザートなるものが大きく食卓の座を占めるようになった。

「お母さん、今夜のデザートなーに」

どうやら、食後の果物のことらしい。

そんな子どもをがっかりさせまいと、やりくり算段の末いくばくかの果物を買い求める。以前は野菜から摂っていたビタミン源が、果物に早変りしているのだ。それには、昨今のミカンの豊作は消費者にとって大助かりである。

でも、そろそろそのミカンが品薄になるころになると、目立って果物代がかさんでくる。高いときなど、副食費の半分近くを占めにことにもなりかねない。

わが家では、数ぎりぎりに買い求めた果物を、人数に合わせて配分する。

それからジャンケンがはじまる。

夫も、私も、真剣な子どもたちの勝負のなかに加わる。夕食後のこのときこそが、わが家のだんらんでも一番のひとときだ。

ジャンケンでびりっこになった末娘が、それでもおいしそうにミカンの袋を口にしているところなどを見ると、せめてこれらの子どもたちにだけでも、四季折々の果物を満足のいくまで食べさせられたらなー、とふと思う。そんなときにはいきおい利を確保するものと知っており低賃と物価高への不満が思わず頭をもたげてくるのである。

酒、煙草をはじめ、諸物価が次つぎに上がっていく中では、どうしてもしわよせされる副食費。その足しにも……と、にわか百姓で育てた庭先の野菜やイチゴに、祈るような思いを寄せている今日この頃の私である。

娘

主婦会宮原分会　山崎さよ子

国鉄のストライキが長期にわたり続けられ ました今日この頃、私に思いださせますのが、現在十九歳になる娘のいった言葉です。

それは、国鉄のストのニュースを見て、「どうしてみんな文句ばかりいうと。国鉄の人たちも生活がかかっているストをするのに。なぜ理解せんとね」といったことです。

考えて見ますと、彼女は高校時代に先生方のストライキで、授業が自習になるときは喜こんでいましたが、先生のストを非難する声が聞かれるときなど、「先生たちも労働者だろが。生活もしていかんとでけんもんね」など話したものだそうでストは、自分たちの生きる権利を確保するものと知っており娘は、これ等の組合運動の意味を、だれから習ったというわけでもないのです。

事実、彼女の友だちで組合運動のことを知っている人はほとんどいないようです。

ではなぜ彼女は、そんな運動に理解の意を示すのでしょうか。それは、この三池労組の闘いの中で生まれ、育ったからなのです。

生れたときから、私たち父親や母親の生活を通じて、闘いを見てきて、組合運動の理論は別として、その大切さをからだで知っているからだと思います。

皆様方のお子様も、同じことだと思います。そこで私たちはこの小さな芽をたやさぬためにも、いかなることにもたえ、三池の火を消さないよう頑張り通さなくてはならないと思います。

×　×

私と息子

三川指導部　M子

一年前――

「お母さん、彼女を嫁にもらってよかね。お母さんの先ざきのことを考えてのことなんだ。彼女も、お母さんのことを心配しているよ。どうしても一緒になるよ」

やぶから棒に切りだした息子のことばに、私はおどろいてしまった。

まあやっと実社会にでてやれやれと思っていたのに、もう嫁をもらうなんて。私は、息がつまりそうだった。

胸をおさえながら、私はあらためて息子の顔を見つめた。きびしい顔をしていた。

この子は、どんな暮らしをする心算かしら。彼女をしあわせにする自信があるのかしら。

いや、まだ若過ぎる。まだまだ早い。

娘の方に子どもができたので「よかった。やっと、孫の話もできるようになった。どんなおばあちゃんになったらいいのかな。孫にどんな服を着せようか。どんなおもちゃがいいのかな」

そんな、限りない夢をだいていたときでもあったので、息子の突然の話に大きなショックを受け、身体がガタガタにくずれてしまいそうだった。

一年間かかって私は考えた。

「息子の好きな嫁さんなら、辛抱してもらえるだろう。よし暖く迎えよう」

やっと去年の十月に、息子の好きな嫁を迎えた。

いま二人は、この不況を乗り越えようとけん命に頑張っているので肩の荷をおろした思いのこの頃である。

これまで、娘や息子から肩をもんでもらったことのない私は「お母さん、肩こっていない」といって、自分のつかれもいとわずに肩をもんでくれる嫁の気持がうれしい。

このしあわせがいつまでもつづいてくれるように祈りながら、毎日元気に働いている私である。

×　×

この一文は、三川指導部坑外職場分会新聞〝ばぐるま〟（五十年十二月十五日発行・第九十四号）から紹介しました。

▽　△

特集

新春文芸

募集がおくれたからでしょうか、新春文芸作品が思うように集まりませんでした。それだけに応募作品は大切にして、ほとんど掲載いたしました。もちろん選衡もやめました。

文芸作品は、本来新年に限らずできたらいつでも編集部にお送りいただきたく思います。どしどし発表し合いましょう。

詩

忘年会

宮浦指導部　平田光男

今宵は五人組の忘年会
一番方の土曜日
来週の月曜日の夕方まで
自分の時間だ
一番楽しい土曜日
しかも夫婦同伴の忘年会
所が
我が嫁さんは忙しいの一言で
私は今宵一晩チョンガー
二次会にも行けぬ
わびしさ
冬空を仰ぎながら
ペタルを踏む

新春雑詠

主婦会宮浦支部　高橋保子

明けましてお目出度う
幾度かくりかえしてきた言葉
なつかしい響の中に
遠い日がよみがえる
おさげ髪の友の顔
嫁いで初めて迎えた正月の朝
あの日から二十数年
明日のしあわせを信じつつ
幼な子の手をひいて集まった
団結祝賀式
きびしいインフレと物価高の中で
もみくちゃにされながら
私は歩きつづける
今年こそは　ほんとに心から
おめでとうと
そう叫ばれる年になりたい
この子等のためにも

よろこび

四山指導部　堀前はるお

昭和十二年九月二日四山坑入社
十六歳
どんなに泣きたい事があっても
どんなに言いたい事があっても
ひとことだって
でも喰いしばった
いつかはきっと　いつかはきっと
創ろう俺達の手で
働く者の組合を
誇るべき組合を
三池炭鉱労働組合を
そして守ろう生命と生活を
働く者皆双手を挙げ
言うべき事は言い
為すべき事は為し遂げた
衆議院議員
参議院議員
県会市会議員
ことごとく当選させたのは
働く者の団結力だった
働く者の勝利だった
こうしてここに停年の喜びを得たのは
全国働く仲間の組織力と
三池炭鉱労働組合の組織力の賜ものだった
働く仲間よ
燃やせ一九七六年に
三池の炎を

旅立ち

主婦会本所支部　平田千佐子

初日　旅立ち
車中一泊
ここは奥彦山登山口
千二百メートルの道標の前
新春を迎えに山頂まで
無事に登るようにと　心に誓う
山頂にて新たに一年の計をたてる
昨年はいろいろな事があった
今年もあらゆる障害が
待ち受けているかも知れない
闘争　闘争に暮れ
ひとだんらくついた時
ふと
子供の年頃になっていた
残された人生を大切にするためにも
幾日か　自分の体験を
つづりたいと思うだけで
暇と体力が両立しない
今日この頃
過去の事は考えない
いつまで考えていても
考えているだけでは前進しないという
今までより少しでも
しあわせになるために
人と人との和　連帯を
大切にして行きたい
新年への　旅立ちの日

短歌

四山指導部　堀前はるお

耐え抜きし妻と酌み合ふ一献の
屠蘇に涙も喜びもあり
団結は働く者のすべてなり革命の旗ひるがえる日まで
団結は我等の命あくまでも守り通さん団結の壁
屠蘇機嫌一つおぼえの〝団結の唄〟口ぐせにうとうわがとも
停年となりし仲間と屠蘇酌みてうとうとは一つ〝炭掘る仲間〟

宮浦指導部　平田光男

人間の常識とはと子に問われ苦しまぎれに辞書を取り出す
お父さんが落した金だと子が渡す胸なでおろす集金の日に
運命か宿命なのか泣く蛙子供のつぶてへびの頭を
スト権を取りかえそうと労働者断固処分を叫ぶ民社党

俳句

四山指導部　村中利行

寒鮒の眼に空の青泌み残り
木枯しに押され坑夫の向う臑
災害続報冬天ぬるりと顔をなめ
どこもあけっぴろげ寒波来る夜の坑夫の死
晩婚の吾子歩ましむ初日中

四山指導部　堀前はるお

闘いは終ることなき年明くる
闘いに停年はなく年明くる
屠蘇一献妻をねぎらいつつ酌めり
屠蘇一献闘い抜きし妻と酌む
一献の屠蘇団結を憶いけり

宮浦指導部　平田光男

なんの為の人間同志の戦いなのだ
なんの為の殺し合いなのだ
ただ
政治家と資本家奴のみにくい
私欲を肥さんための大きなわなだったんだ
私欲の為なら人を殺してもいいのか
ただ人間の仮面を冠っている奴等の犠牲になるのは
もう真っ平だ
許してたまるかこんな奴等を